

たから

TAKUSUI
No. 699

1
January, 2015

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



近畿山陰地区プライドフィッシュPR試食会 (明石市)

新年のご挨拶

近畿山陰地区プライドフィッシュPR試食会 開催

《今月の海上安全標語》～ ライフジャケットを着用しましょう～

県下JF・系統団体では、今年もライフジャケット着用推進やAED実習などの海上安全講習会を開催していきます。今年こそ海難事故0(ゼロ)の年でありますように…

ライフジャケ

つ
LJを

つけて目指そう

事故無い海を

では、今年も安全操業で!



安全安心と

元気の創造

兵庫県知事
井戸敏三

新年あけましておめでとうございます。

今年、阪神・淡路大震災から二十年の節目を迎えます。未曾有の災害から得た経験と教訓を発信し続けるとともに、復興を成し遂げてきた兵庫の力を、未来に向かって、世界に向かって、一層力強く発揮する好機の年としようではありませんか。

昨年末、国政の新たな体制が固まりました。人口減少の克服や東京一極集中の是正など地方創生の動きの本格化に向けて、今こそ、地方が主導する国づくりを進めるべき時です。兵庫の多様性を生かし、個性ある地域の発展に全力を尽くしていきます。

第一は、安全安心の確保。

地震、津波対策のほか、昨年八月の豪雨災害を踏まえた風水害への備えを強化します。また、二〇二五年問題を見据えた福祉・介護・医療の充実や、子どもや高齢者などの課題に対応して、地域社会での暮らしの

安心を確保します。

第二は、活力ある地域経済。

グローバル市場でも存在感を示すオンリーワン企業の育成や、産業としての農業の振興、ブランド化を進めます。子育て環境の充実とあわせ、女性、若者、高齢者、障害者など多様な人材の社会参加を促し、人口減少社会の活性化をめざします。

第三は、地域の元気の創造。

山陰海岸ジオパークなど多彩な地域資源を活用した広域観光圏の形成や、交通ネットワーク等社会基盤の整備、淡路花博二〇一五花みどりフェアの開催などにより、地域活性化と内外との交流拡大を図ります。

ふるさとへの愛着と二十年間の復興の歩みを基礎に、柔軟な発想と地域主導の行動で直面する課題に挑み、兵庫の新時代を切り拓いていきます。

地震乗り越え 未来をめざす

ふるさと兵庫 新しき創造

CONTENTS

No.699 January, 2015

- 2 新年のご挨拶
- 7 第39回 JF兵庫漁連通常総会 開催
貝原俊民前知事「県民お別れ会」
- 8 近畿山陰地区プライドフィッシュPR試食会
- 9 虹の仲間て森づくり
- 10 今漁期ののり共販がスタート
- 11 漁業者塾について意見交換
今月のLOVE SEA并
- 12 兵庫教育大学の大学院生らとの交流会
海難事故をなくそう
- 13 兵庫JCC通信
- 14 旬に想う
大輪田塾だより



表紙の言葉

「近畿山陰地区プライドフィッシュPR試食会」(明石市)

「食べて感動してもらい、その美味しさを発信して頂きたい」とするプライドフィッシュプロジェクト。JF全漁連をはじめJFグループが取り組み、6か月が経ちました。全国各地で様々なイベントが行われ、この兵庫でもPR試食会が行われました。

スーパーなどの小売店には、1年中、魚が売られていますが、旬や漁法など漁師がこだわった“本当に美味しい魚”を食べてもらいたいとするこの取り組みは、まさにプライドを掛けた取り組みといえるでしょう。同会で中澤 さかな氏がいった「漁師の逆襲」は、今年も続いていきます。

新年のご挨拶



年頭のご挨拶

兵庫県漁業協同組合連合会
代表理事会長

山田 隆義

新年明けましておめでとうございます。
年頭にあたり、県内JF組合員の皆様ならびにJFグループの皆様にご挨拶を申し上げます。

漁業を取り巻く環境は、水産資源の減少や魚価の低迷、燃油の高騰、漁業者の減少、高齢化等、依然として厳しく、漁業者の所得、経営の向上が急務の課題となっております。

そのような中、本県漁業にとって重要施策の一つである「豊かな漁場再生」にかかる法整備は、瀬戸内海関係10漁連・漁協の要請に応じて議員立法により、「瀬戸内海環境保全特別措置法」の改正案が国会に提出され、大きな一歩を踏み出しました。また、燃油高騰対策として漁業経営セーフティネットおよび省燃油実証事業等、さまざまな対策が講じられました。

引き続きこれらの重要性を強く訴えるとともに、漁業経営の安定化に繋げるよう積極的に取り組んでまいります。さて、漁業を取り巻く情勢が大きく



変化し、JFの原点、役割、使命が問われている中、昨年11月の全国漁業代表者集会において、JFグループ次期運動方針である「水産日本の復活に向けて」JFグループの挑戦（2015～2019年度）の決議が採択されました。「浜の活力再生」「組織・事業基盤の確立と人づくり」「漁村活性化に向けたJFグループの役割発揮」を3つの柱とした5カ年の運動方針です。

これを受け、本会でも将来に亘って漁業を力強く支え続けている連合会組織を目指して「第3次中期経営計画」を策定しました。「漁業の再生」「漁協の組織強化」「鮮魚流通事業の拡充」「漁業と消費者をつなぐ活動」「組織と事業の改革」を5つの基本方針に掲げ、全力で取り組む決意を新たにいたしました。

一方、新たな取組みとして、全国では全漁連を中心に漁師が選んだ本当においしい魚を一般消費者に伝える「プライドフィッシュ」が展開されており、

昨年12月には兵庫県水産会館で近畿山陰地区の大試食会がメディア向けに開催され、一般消費者へ地元の魚の美味しさを伝えることが出来ました。県内ではSEAT-CLUBが中心となり、魚の消費拡大に向けた積極的な取り組みを行って参りますので、会員の方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、第39期の本会事業実績は、石油と資材事業では仕入交渉の強化や価格低減化に努め、のり養殖業では前年を上回り、加工事業においては経費の削減に取り組むとともに、地元の生協や量販店への地魚販売が大きく進展した結果、全ての事業において計画を上回る実績を上げることができました。

これらはひとえに会員各位をはじめ系統団体、関係各位の皆様方のご支援・ご協力の賜物であり、改めて感謝申し上げます。

本年の漁業が順調に推移し活気を取り戻して、希望の持てる年となりますとともに、皆様のご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

兵庫県信用漁業協同組合連合会
代表理事会長

山田 峰人

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、会員並びに組合員の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より本会業務の運営に格別のご高配をいただいておりますことにあらためて厚くお礼申し上げます。

昨年を顧みますと、我が国経済は、17年ぶりとなった消費税率の引き上げを控えての駆け込み需要により、一部の業種で人手不足感が強まるなど需給バランスが改善したものの、消費税増税後、国内景気は一転、停滞感が続く状況となり、安倍政権は、消費税増税の先送りとアベノミクスの信任を問う解散総選挙に踏み込むなど、景気転換期の重要な時期であることが窺われる一年となりました。

また、需給バランスによる原油価格の下落が垣間見えるものの、依然として原油の高止まりが漁業経営の改善を遅らせる要因となっている状況であります。昨年11月には、「燃油価格高騰対策及び漁業用軽油にかかる免税措置の堅持を求め全国漁業代表者集会」が開催され、漁業の存続を図るため全国の漁業代表者が集結し、政府及び国会に強く求めていくことを確認するところとなりました。

本会は、この厳しい漁業環境の中において、漁業ならびに水産加工業を金融面でサポートするという使命のもと、安心

して利用していただける「浜の金融機関」として、リスク管理態勢の充実を図り、経営収支の安定化と財務基盤の強化を目的に「店舗機能再構築計画」の実行に取り組みとともに

協議を開始したところであります。貯金業務においては、水揚げ代金の口座振替と貯蓄推進キャンペーンの実施により個人貯金の底上げを図ることで資金量の安定確保を目指し、融資業務では、「省エネ機器等導入推進事業」を活用した融資対応に積極的に取り組むとともに、金融円滑化への対応にも継続して取り組ん



新年のご挨拶

兵庫県漁業共済組合
組合長理事

川越 一男

皆様には心身ともに健康で清々しい

お正月をお迎えのことと存じます。今年 は十二支の第八番目の未年であり、未末末が、末末末で大変素晴らしい年となります。さて、ご存知の通り「水清ければ魚棲

この頃であります。ところで、私どもの漁業共済事業は昨年10月に制度創設50周年という大変大きな節目を迎えることができました。これひとえに関係各位の長年にわたるご支援とご協力の賜物であり、ここに改めて衷心より感謝申し上げます。ここに改めて衷心より感謝申し上げます。ここに改めて衷心より感謝申し上げます。

めず」という格言がございますが、やはり魚も食べるものが無ければ育ちませんし、窒素やリンなどの栄養素も不足すれば色落ちした栄養失調のノリになってしまう。これを人間世界で例えるならば、毎日が空腹を満たすだけの白いご飯(CO₂)のみで、おかず(N・P)が殆ど無い状態で暮らしているようなものであります。このような中で、懸念の瀬戸内海再生法(瀬戸内海環境保全特別措置法の改正法)の動向が気になる

ところが、いずれにしてもこの法律でもって瀬戸内海が名実ともに再生し、豊饒の海となるのは一体いつのことであるのか。同法が制定されて既に40年が経っているが、やはり最低でもその位の

なものであります。このような中で、懸念の瀬戸内海再生法(瀬戸内海環境保全特別措置法の改正法)の動向が気になる

豊饒の海となるのは一体いつのことであるのか。同法が制定されて既に40年が経っているが、やはり最低でもその位の

でまいります。最後になりますが、今後とも役員一同、水産系統組織の一員としての自覚を持ち、系統金融機関の機能発揮に取り組んでいく所存でございます。本年も、皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

巨つて安心して漁業経営を続けられるよう、県・漁業連・系統団体等と連携をとりながら、「ぎよさい」と「積立ぶらす」のより一層の浸透・定着に取り組んでまいり所存でございます。どうか皆様におかれましては当該事業に対する倍旧のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、月日が経つのは非常に早いもので、本年1月17日をもってあの阪神淡路大震災から丸20年になります。特に淡路から阪神間にお住まいの方は、今でもあの時のすさまじい轟音と大きな揺れを体の芯で憶えておられるとは思いますが、いずれにしましてもこの震災で多くの尊い命が失われました。ここに20年という節目にあたり、改めて亡くなられた方々に対するご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。





新しい年を迎えて

兵庫県農政環境部農林水産局
水産課長

近藤 敬三

新年あけましておめでとうございま

す。皆様には、清々しく新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。新しい年が希望に満ちた一年となりますよう、心からご祈念申し上げます。

昨年は、アベノミクス効果による景気回復と、消費税の税率引き上げに伴う消費の冷え込みや日銀の追加金融緩和による円安・株高など、経済状況の不透明感が続いた一年でした。昨年末には第3次安倍内閣が発足し、今後の経済対策が期待されるのですが、円安の進行による原油高が続いており、依然として原油高が漁業経営を大きく圧迫していることから、引き続き国に対して、漁業用燃油価格高騰等への対策強化を要望してまいります。

現在、国におきましては、「水産日本の復活」を目標に様々な施策が掲げられおり、その中でも、漁村の活性化、所得向上を目指し、それぞれの浜で漁業者の皆さんが自ら考え、取り組む、「浜の活力再生プラン」の作成・実現が重点点に位置づけられています。本県におきましても15地区のプランが承認され、その他の地区においても策定に向け手続きを進めていただいているところですが、今後ともプランの確立と実現に向けて着実な実行をお願いいたします。

JF兵庫漁連をはじめ系統の皆様におかれましては、豊かな海の再生に向けて積極的に取り組んでおられますこと、さらには、県産水産物の販売促進及び魚食

げます。

県といたしましても、現在、本県農林水産業施策の指針を示した「ひょうご農林水産ビジョン2020」の見直し作業を行っており、現場の声を踏まえたいう

普及活動等、精力的な活動を展開されておられますことに、心から深い感謝と敬意を表しますとともに、県政の各般にわたり、格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。



新年のご挨拶

兵庫県水産技術センター
所長

山村 雅雄

新年明けましておめでとうございませす。各浜の皆様方におかれましては、気分も新たに清々しい新年をお迎えになられたことを心よりお慶び申し上げます。

本県漁業者の念願であった「瀬戸内海環境保全特別措置法」の改正もようやく軌道に乗りかけたと思つた矢先に衆議院の解散という政治的な変化に見舞われました。しかし、どのような大きな政治的变化があつたとしても海の様子が変わるわけではありません。多くの漁業関係者の方々は、引き続き改正に向けた努力を続けて行かれると思ひますし、水産技術センターでもこれまでと同様にあるいはこれまで以上に調査・研究を進めていきたいと思つていきます。

過ぎた一年を振り返りますと水産関係でも種々の話題がありました。年の終盤にかけてカキ・ワカメの養殖用の種苗供給に大きな懸念が生まれました。水産物の場合には、陸上の作物のように

で今後の方向性を検討したいと考えています。皆様が安定した漁業経営のもとで、将来にわたり誇りと希望をもって漁業を続けていただけるよう、様々な施策を展開してまいりますので、今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

種苗をすべて人間のコントロール下においておけず、自然の力を借りて採苗・育苗することが必要になってきます。

水産技術センターには、種苗生産について、これまですでに開発した技術もありますし、新たな養殖用種苗として活用できる技術開発にも取り組んでいるところで、養殖業の生産過程として種苗から収穫まで、すべて自らの手で行うことは時間的・経費的制約も大きいと思ひます



年頭のご挨拶

兵庫県農政環境部農林水産局
漁港課長

坪田 勝幸

あけましておめでとうございませす。皆様には、新しい年の門出をすがすがしい気持ちでお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

今年には阪神・淡路大震災から20年を迎えます。兵庫県では、被災県として震災で得た

が、リスク管理やブランド化の視点から漁業者の方々が新しい技術の導入を検討される時期に来ているのではないのでしょうか。

一方、日本海側でもバイオテレメトリーを使ったズワイガニの行動追跡調査の手法が開発されました。これによって増殖場内のズワイガニの分布・行動・場外への拡散の状況等が明らかになってきましたし、この技術はこれからは増殖場の利活用や操業の一助になるのではないかと期待しています。

今後も、漁業者の方々が困つたときに気軽に来ていただける、また、次の生産につながる新しい技術を提供できる水産技術センターを目指して努力して参りますので、昨年に引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、ひょうごの海が、漁業者の皆さんだけでなく多くの消費者に豊かな恵みをもたらせてくれる一年でありますことを願うとともに新しい年が心豊かで希望に満ちた一年となりますことを祈念申し上げます。

教訓を強く発信するとともに、東日本大震災での新たな教訓も踏まえた災害に強い漁村づくりを引き続き進めてまいります。近い将来発生が懸念される南海トラフ地震による津波に対しても、「兵庫県津波防災インフラ整備5箇年計画」を策定し、漁港・海岸施設の機能強化や老朽化対策に積極的に取り組んでまいります。

「豊かで美しい海」を取り戻すための取組みでは、漁港が持つ「魚を育てる機能」に着目して、平成26年度からは紀伊

水道地区の漁港の調査・評価を進めています。本年は、既存漁港をより生物にとつて良好な生育空間として活用可能な漁港施設整備の手法を検討してまいります。所得向上と水産物の消費拡大に向けた取組みでは、漁港での水産物直売活動などを支援するため、都市住民との交流の場を提供できるよう施設の改良に取り組



年頭のご挨拶

全国漁業協同組合連合会
代表理事会長
岸 宏

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、全国津々浦々でご活躍中の組合員並びにJFグループの皆様にご挨拶を申し上げます。

改めて申し上げるまでもなく、漁業を取り巻く情勢が大きく変化している中、JFの原点、役割、使命が今、大きく問われております。

JFの原点は「浜」にあり。「浜」の安定化なくして、JFの健全経営はありません。JFの健全化なくしてJFの役割発揮もありえません。

そのため、我々は昨年11月にJF全国代表者集会を開催しました。そこで「浜の活力再生」、「組織・事業基盤の確立と人づくり」、「漁村活性化に向けたJFグループの役割発揮」の3つの柱とした5か年の運動方針「『水産日本の復活』に向けたJFグループの挑戦」をグループの総意のもと採択し、浜の再生と浜の活力を取り戻すことを誓いました。

浜の活力再生プランを完遂し、浜が自ら変わることが、我々が求める政策の実

むとともに、ノリ養殖漁業の経営安定化に向けて、効率的な設備へ更新などの支援にも引き続き取り組んでまいります。本年も引き続き「ひょうご農林水産ビジョン2020」に基づき、①資源培養型水産業の推進、②豊かな里海づくり、③災害に強い農山漁村づくりを施策目標に、力強い水産業づくりを目指して漁港・漁

現につながり、JFの存在が国民に認知され、その負託に応えることとなります。

水産日本の復活に向け、本会では昨年より全国的に「プライドフィットプロジェクト」を展開し、そして今



全国共済水産業協同組合連合会
代表理事会長
鎌田 光夫

平成27年の年頭にあたり ―目標達成を期して―

明けましておめでとうございます。皆様方には、日頃からJF共済の普及推進活動に熱心にお取り組みいただき心よりお礼を申し上げます。年頭にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

さて、このところの景気後退懸念が高まる中、JF共済を取り巻く環境も、急激な円安による燃油高騰と不安定な魚価状況、原発事故による風評被害、また、T P P参加への不安等、深刻な課題が山積しております。

こうした厳しい環境の中、平成26年度を初年度とするJF共済の新3か年計画がスタートしました。この3か年計

村及び海岸の整備に取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。最後になりますが、本年が皆様にとってさらなる飛躍の年となりますよう祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

年はシンガポールに将来のJFグループの輸出拠点となる店舗の開店を予定しています。また、全国の浜々では省燃油型漁業の実践、漁獲物の付加価値向上のための農商工連携、6次産業化などの取組みが拡がっています。

各地でのこうした貴重な取組みがある一方、昨年11月に北京で閣僚会議が

画では、とくにチョコーについては保有契約量の減少傾向に歯止めをかけることを目的とした事業量目標を設定しており、この目標の必達をはかるため、①組合員等利用者ニーズに対応した保障提供、②東日本大震災被災JFの復興支援、③万全な共済実施体制の確立、④元気で活力のある漁村・地域づくりの支援、といった主要施策を着実に実行し、JF共済事業の健全性強化をはかることとしております。

このため全国のJFにおかれましても、JFが持つ最大の強みである協同の力を発揮され、全戸訪問を基調とする保障点検活動を展開し、チョコー新医療共済「匠」を前面に打ち出した新規契約の確保等、精力的な共済推進活動に取り組んでいただいているところであります。

開催されたT P Pについては、依然として重要な情報の開示がなされておらず予断をゆるさない状況が続いています。我々としてもこれまでの主張とおもひ主要品目の関税、漁業補助金の維持を政府・与党に強く求めて参らなければなりません。

全国でのご活躍の皆様に、その英知と総力を運動方針の実践を通じた水産日本復活への果敢なる挑戦に結集していただきたくお願い申し上げます。

最後になりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆様の操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

いっぽう、JF共水連では平成24年度から3か年の増資計画をすすめているところでありますが、非常に厳しい事業環境の中、これまでに増資目標額の95%以上ものお引受をいただき、さらには、各準備金の充実強化もあって、700%を超えるソルベンシー・マージン比率を確保することができました。

加えて、昨年の7月からJFシステム方針として、2年間限定で行っている漁業者年金の「一括払制度」の選択状況は、JFにおけるきめの細かな個別ご案内が奏功し対象者の約55%（26・11末）の方が選択されています。併せて皆様方には特段のご理解とご尽力をいただいておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

今後とも一層の経営の健全性・信頼性の確保に努め、組合員・利用者の負託に応えてまいります。皆様方には引き続きご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



挨拶に立つ山田会長

第39回 通常総会 開催される

～第三次中期経営計画も決定～

JF兵庫漁連

12月8日(月)グリーンヒルホテル明石(明石市)において、JF兵庫漁連(山田 隆義会長・JF神戸市)の第39回通常総会が、兵庫県農林水産局 新岡史郎局長、農林中央金庫大阪支店 戸高聖樹支店長をはじめ、JF組合長及び系統団体から多数の出席者を迎え開催されました。

開会にあたり山田会長は「漁業を取り巻く環境が年々厳しくなっていくなか、浜の活力を取り戻し、強い漁協、新しい兵庫の漁業を作っていきたい。」と挨拶があった後、来賓の新岡局長(兵庫県 井戸敏三知事の祝辞代読)、戸高支店長から祝辞がありました。

39期の事業実績は、ノリ・カキ養殖が順調に推移したなか、購買事業は仕入交渉の強化、価格低減に努め、販売事業においても生協等への地魚販売が大きく進展するなど、ほとんどで計画を上回りました。結果、事業総取扱高220億、事業利益1億9,100万円(計画対比1億1,000万円増)、経常利益1億7,400万円(計画対比9,700万円増)となり、事業報告など全議案原案通り承認されました。また、次期(40期)から42期の間に取り組む第三次中期経営計画も合わせて承認されました。同経営計画では「10年後を見据え、今、しなければならぬこと」として①漁業の再生に向けた検討と取り組みを行う、②漁協の経営能力強化・事業強化に取り組む、③員外からの収益を獲得し員内へ還元するため、消費者への鮮魚流通事業を拡充させる、④多様化する消費者ニーズの動向に対応した漁業生産のあり方を模索するとともに、漁業への理解を促す情報発信、食育活動、体験漁業等の取組みを行う、⑤組合員の減少による事業の縮小・停滞に備え、組織と事業の改革に取り組みとした5つの基本方針に基づいて実施され、40期では、事業収益12億9,110万円、事業総利益12億2,820万円、事業利益1億1,650万円、経常利益9,700万円をそれぞれ見込んでいます。



貝原俊民前知事

「県民お別れ会」 県公館で



(一財)兵庫県水産振興基金

人を偲びました。

兵庫県の水産振興に多大な貢献をされた故貝原名誉会長に深甚なる感謝の心を捧げるとともに、ご遺志を受け継ぎ、関係者一同、水産業の発展に全力を尽くすことをお誓いし、心からご冥福をお祈り申し上げます。

11月に急逝された貝原俊民前知事(当基金名誉会長・初代理事長)の「県民お別れ会」が、12月24日(水) 兵庫県公館で行われ、実行委員長を務められた兵庫県 井戸 敏三知事をはじめ市町長、議会関係者、各界著名人ら約670人が参列され、哀悼の誠を捧げられました。水産業界から山田 隆義JF兵庫漁連会長が代表して参列されました。式典後には、県公館および各県民局に設けられた献花台に約2,400人が足を運び、故



近畿山陰地区プライドフィッシュPR試食会が開催される 5府県から、漁師自慢の魚が勢ぞろい

(一財)兵庫県水産振興基金

JF全漁連(岸 宏会長)は、「プライドフィッシュプロジェクト」を今年6月から始め、各地でイベントを行うなど好評を博しています。このプロジェクトは、消費者に本当の魚の美味しさを知ってもらいたいと、各都道府県のJFグループが自信をもって勧める漁師自慢の魚を季節ごとに選定し、美味しさや旬などの情報を発信するとともに、食べてもらうことで、美味しい魚を食べた時の感動を提供するものです。12月4日(木)には兵庫県水産会館で、報道関係者らを集めての「近畿山陰地区プライドフィッシュPR試食会」が開催されました。



播磨灘産カキを使った料理も大好評

この日は、報道関係者や行政、JF関係者ら約80名が集まり、挨拶でJF全漁連長屋 信博専務は「水産庁の行なうファストフィッシュは、簡便な魚料理として広がりを見せている。プライドフィッシュ

はこれと表裏一体で、週末には美味しい魚を食べたいというニーズに応えるもの。食べて感動してもらい、美味しさを発信して頂きたい」と述べました。続いて、来賓の水産庁漁政部加工流通課 杉中 淳課長から「美味しい水産物は地元の宝。その美味しさ、魅力の再発見の場としてもらいたい」と挨拶がありました。JF全漁連 三浦部長からのプロジェクトの概要説明に続いて行われた試食会では、大阪・兵庫・鳥取・島根・岡山の5府県のJFが用意した料理が振舞われ、各JFからPRがありました。(別表参照)

兵庫からは「蒸し牡蠣」と「牡蠣の磯辺揚げ」が提供され、まずJF兵庫漁連 山田 隆義会長が「播磨灘は川か

らの豊富な栄養が流れ込み、1年で出荷サイズまで成長する。広島や宮城のカキも有名だが、播磨灘のカキの美味しさも知ってほしい」と述べたのち、JF赤穂市 大河 優組合長が、カキの説明と料理のPRに努めました。

参加者は料理の味に満足したようで、兵庫のカキをはじめ、各県の料理は大好評であったことを受け、試食後の総評で、プライドフィッシュ企画委員 中澤 さかな運営委員長は「この感動を一人でも多くの人に伝えてもらいたい。このプロジェクトは、漁師の逆襲である。是非、皆様に応援して頂きたい」と呼びかけました。

なお、プライドフィッシュのホームページでは、各都道府県の鮮魚を買い取る店、魚料理が美味しい店、魚を美味しく食べるレシピも紹介しています。

『プライドフィッシュ』公式サイト
URL: <http://www.pride-fish.jp>
TEL: 03-3264-6674
(JF全漁連 水産物消費拡大対策部)



プライドフィッシュプロジェクトは、国産農林水産物の消費拡大に寄与した事業者・団体に贈られる「フード・アクション・ニッポン・アワード」の販売促進・消費促進部門で最優秀賞を受賞しています

5府県のプライドフィッシュ

団体名	プライドフィッシュ登録魚名			
	春	夏	秋	冬
大阪府漁業協同組合連合会	—	※魚庭のマガコ	※魚庭のサワラ	—
兵庫県漁業協同組合連合会	浜坂産ホタルイカ「浜ほたる」	淡路島の生しらす	明石浦のもみじ鯛	※播磨灘産1年牡蠣
鳥取県漁業協同組合	※鳥取のハタハタ	夏輝(天然の岩ガキ)	鳥取のサワラ	※松葉がに(ズワイガニ)
漁業協同組合 JFしまね	—	コビル(アカアマダイ)	※ノドグロ(アカムツ)	—
岡山県漁業協同組合連合会	下津井のとらふぐ(おおぶく) 白子持ち	流瀬のかつお(まながつお)	わたりがに(かざみ)	※げた(舌平目)

(※印で太字で記載しているのは、今回、提供されたもの)



播磨灘産カキのPRをする山田会長と大河組会長



JFしまねのコーナーではJF全漁連 岸会長 (JFしまね組会長) が自ら調理されました



各府県の自慢の料理



虹の仲間で森づくり ~約220名が作業を行う~

JF兵庫漁連指導部



森の中へ入っていきます



日射しが差し込んできました!

森の中で、木を切る。という作業ですが、たいへん面白い。という感想が多く、何度も繰り返し参加している方が多い活動です。来年は皆様も是非参加してみてください。
※近年、漁業者の参加が減少傾向にありますので、特に漁業者の皆様への参加をお待ちしております。

な雰囲気になりました。



みなさん、お疲れさま!!

漁業者と消費者が共に手を携えて、豊かな海を支える森を育てていくことを目的に、コープこうべとJF兵庫漁連が共同で取り組んでいる「虹の仲間と森づくり」。8回目となった今年度は12月6日(土)に行われ、JFグループ関係者、コープこうべの会員や行政関係者らが、森林の除伐活動に汗を流しました。
この日、会場となったグリーンピア三木には、県内各地から約220名が集まりました。作業前には、森と海のつながりについて、県水産課漁場整備班 大橋広義主任からの話を聞いた後、22班に分かれたヘルメット姿の参加者は、NPO法人「ひよっこ森の倶楽部」の指導員の皆さんに誘導され、次々に森に入りました。
当日は厳しい寒さの中でしたが、作業を進めると上着を脱いだり、汗を拭く参加者の姿が見られ、除伐作業終了時には、森に日射しが差し込む光景がたくさん見られました。
作業終了後の交流会では、牡蠣の味噌汁、浜茹でセコガニ、黒鯛の混ぜご飯等、県内水産物を使用した食事に加え、漁業者よりご提供いただいた二枚貝のウチムラサキも振る舞われるなど、昼食時の交流会は各テーブルで歓談がすすみ、和やかな雰囲気に包まれました。

今漁期ののり共販がスタート 16日には「献上のり審査会」も行われる

JF兵庫漁連のり海藻事業本部

JF兵庫漁連（山田隆義会長）が開催する今漁期の乾のり入札会が12月から始まり、共販日にはJF兵庫漁連のり流通センター（加古郡播磨町）に全国から多くの商社が集まり活気づいています。

今漁期の育苗・本張りは、一部で水温低下の鈍さから成長に障害があったが、概ね順調でした。摘採時には、強風の影響で生産量は伸びませんでした。今後、水温は安定し、栄養塩も問題なく、ノリの成長も勢い付く時期でもあることから期待が高まっています。

今漁期の共販は臨時も含め15回の開催を

予定しています。第1回共販に先立ち、12月12日（金）には臨時共販を開催し、西播地区から約1,400万枚が上場され33社（約70名）が訪れました。19日（金）の第1回共販には、西播地区をはじめ摂



多くの人で賑わった第1回共販

津・東播地区、淡路地区から約4,900万枚が上場され、49社、約110人の来場がありました。

19日の共販で、挨拶に立ったJF兵庫漁連 山口徹夫専務は「漁期前には、ノリの質・量ともに良好としていたが、臨時共販開催時には強風のため減産した。しかし第1回共販は、漁業者の努力により約5,000万枚の出品があった。あらためて漁業は自然が相手であることに気付かさ



献上のり審査会の様子

れた」とされ、今後は良いノリづくりを業界一丸となって取り組むと挨拶しました。続く、兵庫海苔入札指定商組合 松谷晃理事長（松谷海苔株式会社）は「我々はノリがないと商売にならない。漁業者の努力に見合った評価をし、生産・販売が一体となって支えていきたい」とし、本県のノリ養殖の順調で高品質な生産に期待を寄せられました。

また、第1回共販に先立ち、16日（火）には、JF兵庫漁連が毎年行っている天皇陛下への「献上のり」の審査会が水産会館で行われました。山田会長、山口専務をはじめとする審査委員7名が、色・艶・味について審査した結果、JF明石浦生産の等級「新優」が選ばれ、19日には山田会長によって宮内庁に献上されました。

（臨時・第1回乾のり入札会：結果）

	臨時共販	第1回共販
共販枚数	1,400万枚	4,951万枚
共販金額	1億3,754万円	5億7,540万円
平均単価	9円81銭	11円60銭
最高値	16円30銭（室津協業・新重優）	55円00銭（東二見・新優）

漁業者塾について意見交換 ～三重県漁業担い手対策協議会が来館～

(一財)兵庫県水産振興基金

三重県では、

新規漁業就業者に対する塾を開講するなど、漁業の担い手を育成する事業を展開しています。今回、新たな漁業者研修制度創設に向けた検討を始めるため、系統団体・行政で組織する三重県漁業担い手対策協議会（長井理会長・JF三重漁連）のメンバー11名が、今後の参考にしたいと水産会館に來られ、当基金（大輪田塾事務局）と意見を交わしました。

会議は12月16日（火）に開催され、当基金の同塾 戸田 氏 認 事務局長（振興基金専務）から兵庫の漁業の現状や、当基金の事業内容について話をした後、大輪田塾について事務局より説明を行いました。意見交換では、塾のカリキュラムや塾生募集、修了後の活動に至るまで多岐にわたり、2時間をこえる活発な議論がなされました。

近年、他県から当塾への視察等が増えてきました。同じような漁業者塾を運営している県もあり、こちらも、より一層の大輪田塾の充実を図っていきます。



今月の♡LOVE SEA 丼

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会

拓水で度々お知らせしております関西学院大学生協の協力で販売している LOVE SEA 丼。その第7弾は、11月26日から3日間限定で「明石だこ丼」と「アナゴ丼」の2種類を販売しました。明石だこ丼はJF西二見で水揚げされ加工したものを使った天ぶらに、イカナゴの唐揚げをトッピング。アナゴ丼はJF林崎で水揚げ後、蓄養したものを使っています。どちらの丼も、3日間ともに12時過ぎには完売する人気ぶりでした。



▶ボリューム感のある「明石だこ丼」



▶大きな天ぶらが贅沢「アナゴ丼」

兵庫教育大学の大学院生らとの交流会を開催
 ～調理実習を交え、兵庫の海について説明を行う～

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会



摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会（大西 正起会長・JF伊保）は12月10日（水）に国立大学法人兵庫教育大学（加東市社町）において消費流通検討交流会を行い、参加した大学院らと意見を交わしました。

この取り組みは、食育活動の一つとして、教員を目指す人や現職教員を対象としており、教育の現場での「水産業」、「食育」の授業に役立てようと20名を超える参加がありました。交流会では、判りやすいように、大きなスズキや赤シタを三枚に卸すコツを伝授しながら、刺身や煮付けにしました。こ

のほか、青壮年部が用意したチリメンや明石だこのやわらか煮、相生産の殻付きカキのほか、焼き海苔などを食べながら兵庫の漁業について説明を行いました。なかでも焼き海苔は色落ちしたものとそうでないものの2種類を食べ比べ、その原因とともに豊かな海を取り戻す取り組みについて説明をしました。終了後には、学生らから「社会科で漁業について教えるのに参考になった」、「先生になって子どもたちに伝えたい」、「教材研究の参考になる」といった感想が聞かれる等、関心の高さが伺えました。



海難事故をなくそう！

ライフジャケットを着用しよう！

ライフジャケット非着用者の死亡率は、着用者の死亡率と比べ「2倍以上」高くなっています。是非、着用して下さい。



固型式
ライフジャケット
モデル：JF由良
武田 政和
組合長

～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか？

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。

※ライフジャケットではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。



**浮きます！
是非、試して下さい！**

モデル：JF兵庫漁連
資材部
松谷 文博 統括

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部（078-942-9272）までお問い合わせください

地域を越えた交流で 広める仲間の輪

～兵庫県JA女性組織活動交流会を開催～

兵庫県JA女性組織連絡会

兵庫県JA女性組織連絡会は、昨年11月28日、たつの市の赤とんぼ文化ホールで、「兵庫県JA女性組織活動交流会 ～つながる仲間 広める笑顔～」を開催しました。県内9JAから女性組織メンバー等259人が参加し、日頃のグループ活動の成果を発表しました。

交流会は、県内JA女性組織の会員同士の交流と組織活動の活性化を目的としたもので、今回が2年ぶり3回目の開催。各JA女性会の声を踏まえ、従来の舞台発表に加え、新たに展示発表と加工品・作品販売に取り組み、より多彩な活動を披露できるよう、規模を拡大しました。

舞台発表では、詐欺被害防止の寸劇や地域の伝承を基にした紙芝居等、くらしに根ざした女性会ならではの活動や、コーラス・踊り・ファッションショーといった華やかな活動を発表しました。また、展示発表では、パッチワークやカービング等の女性らしい繊細な作品が並びました。加工品・作品販売では、地域の特産物を使った加工品や手芸作品等が好評でした。

交流会の最後には、参加者全員で総踊りを行い、地域を越えた交流を深めあいました。参加者からは「女性会の仲間と良い交流ができました。他組織の活動を自分たちの地域に持ち帰り実践してみたいです。」等の声が聞かれました。

兵庫県JA女性組織連絡会では、交流会の開催等を通じて、各JA女性組織の活動活性化を図るとともに、日々のくらしや地域社会を豊かにするJA女性組織の仲間づくりにつなげていくことを目指しています。

▶グループ活動を
発表する参加者



◀米粉を使った
加工品を販売

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

兵庫県・兵庫県生協連共催 「監事研修会」を開催

11月6日（木）、兵庫県生協連では、兵庫県・兵庫県生協連共催による「監事研修会」を開催しました。この研修会は、生協運営の健全な発展に果たすべき監事の役割と監査の実務のあり方を学び、今後も健全な生協運営を実施していただくために計画したもので、19生協から37名が参加しました。

はじめに、兵庫県企画県民部消費生活課より「監事の役割と指導検査で見受けられる問題点」と題し、監事の役割や運営面・経理面での指導検査での問題点について講演をいただきました。

次に「決算書の見方と監査のポイント」と題して、税理士・公認会計士（兵庫県生協専門検査員）・押田大輔氏より、監査の基本、決算関係書類等の見方、勘定科目別監査のポイントなどについてご講演いただきました。

参加した役職員・監事からは「講義の中の勘定科目ごとの監査のポイントは日常の業務の中でも“注意すべきポイント”なので参考になった」「今年、指導検査があるので指摘、講評事項等は参考になった」「事例をあげて、もう少し詳しい内容の説明もあるとよい」「監事さん同士の交流もはかりたかった」などの感想が寄せられたほか、熱心に質問を行い、監事監査に対する関心の高さが感じられました。



チェック体制の強化などの整備も必要



監査のポイントについて熱心に聴き入る参加者

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

お詫び

12月発行の拓水第698号 5頁の「JF全国代表者集会 開催～「水産日本」の復活へ JFグループ運動方針を採択～」において、掲載している写真3枚全てはJF全漁連からご提供頂いたもので、(写真提供：JF全漁連)と表記すべきところを記載もれしておりました。

関係者の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。ここに訂正して、お詫び申し上げます。



旬に想う

写真と文
遊方子

ひょうごの城巡り

◆兵庫県の博物館であるという。瀬戸内から日本海、そして淡路島と広大な県域には千余りの城跡があつて『姫路城』は城閣として世界文化遺産に登録された。その華麗さ雄大さは全国屈指のものである。かつて三名城と讃えられた「熊本城」は西南戦争で焼け「名古屋城」は太平洋戦争で焼失。唯一残った姫路城は天守閣も有り国宝となった。構造の美は名実共に世界の誇りで、城閣建築の最高傑作と評される。昭和31年から8年を掛けた大修理は、延べ20万の職人が関わり、多くの技が注ぎ込まれた。今回、平成の大修理でも精根込めた職人技により、白漆喰を塗り込めて美しさを増し、別名通りの白鷺城になった。

◆和田山の『竹田城跡』は日本の百名城に選ばれた。城の遺構が良く残っている事で知られ、緻密に積まれた石垣の美しさは一見の価値がある。映画の背景としても利用され、城門のセットが組まれ大勢の兵士が駆け昇り、勇壮な場面に使われていた。晩秋の晴れた早朝、濃い雲海に浮かぶ景色を日本のマチュピチュと呼ぶ。数回訪ねたが、まだ雲海に遭えず、何時か見たいと思っている。

◆JR元町の西、高架線路の北側に「花隈城跡」がある。石垣を築いて土盛りをした屋上が城跡公園になっており、地下が駐車場である。復元ではなく新設計により作られた。周囲をビルに囲まれ眺望は狭いが、歴史遺産としての雰囲気はある。六甲山系が海へと張り出した先端（鼻）で、鼻熊城とも書かれる。築城は永禄十年とも天正二年か四年との説もあり判然としないが、古図によって本格的な平山城だと分かる。花隈町に本丸東角・本丸上・二の丸など多くのアザ名が残り、鯉川筋辺りを大手町と呼んだと伝わっている。あの辺りに大手門があつたらしい。滝廉太郎は岡城跡に詩情をそられ名曲「荒城の月」を残したが、都会の真ん中の城跡は排気ガスが漂うばかりで、風情は全く無い。

◆明石市林の『船上城』は、高山右近が築城した小さな天守を持つ城郭だった。廃城となり、今は本丸跡が残るだけで住宅地に埋没、直ぐ東を古城川が流れて、こんもりと緑の森のように見えている。不要になった資材は『明石城』の築城に活かされたという。明石の地は、古代から交通の要衝で、東西に山陽道が通り、北へは丹波・但馬の道があり、何よりも淡路・四国への道であつた所から、徳川幕府は西国の外様大名を牽制のため、姫路に次いで明石を重視した。現在、明石城跡は県立公園として整備され、喧噪な町中であつて静けさが味わえる空間になっている。野鳥の飛来も多く、アオバツタが毎年子育てにやってくる。

大輪田塾だより

漁場整備と栽培漁業について

12月の大輪田塾は9日（火）に、「漁場整備について」（講師：県水産課漁場整備班 森本 利晃主査）と、「栽培漁業の概要について」（講師：公財）ひょうご豊かな海づくり協会 永山 博敏主幹）の2講座を開講しました。

「漁場整備について」は、県の行なっている漁場整備事業の概要から日本海、瀬戸内海での具体的事例、今後の課題などについて詳しく説明がありました。「栽培漁業の概要について」は、栽培漁業の概念や、県内で栽培される魚の実績、解決すべき問題点などが解説されました。最近、魚礁が出来た海域で操業したり、中間育成を行っていた塾生もおり、たくさん質問がありました。



「栽培漁業の概要について」の様子



森本主査による「漁場整備について」

この後の大輪田塾

日時：平成27年1月20日（火）13時30分から 水産会館にて
講義：「兵庫県の漁業概要について」
「漁港について」